

二世豊竹古靱大夫床年譜 (十七)

不許複製

年次 劇場並に狂言 古靱大夫に關する記事 淨瑠璃界一般

大正十四年
八月十二日
初日
(七日間)

道頓堀 中 座

一座
古靱大夫、清六、鏡大夫、新左衛門、猿太、鏡大夫、相生、助造、陸路、淺造、辰、大之、勝造、團三、綱生、三郎、辰、大之、貞吉、野主、任、綱生、二、林、梅太郎、木村猪之助

八月廿四日
初日
(五日間)

高松 大和 座

一座
古靱大夫、清六、鏡大夫、新左衛門、猿太、鏡大夫、相生、助造、陸路、淺造、辰、大之、勝造、團三、綱生、三郎、辰、大之、貞吉、野主、任、綱生、二、林、梅太郎、木村猪之助

九月一日
初日
(六日間)

博多 大博劇場

一座
津座、道八、土佐大夫、吉三郎、古靱大夫、清六、鏡大夫、相生、助造、陸路、淺造、辰、大之、勝造、團三、綱生、三郎、辰、大之、貞吉、野主、任、綱生、二、林、梅太郎、木村猪之助

九月八日
初日
(三日間)

廣島 壽 座

一座
津座、道八、土佐大夫、吉三郎、古靱大夫、清六、鏡大夫、相生、助造、陸路、淺造、辰、大之、勝造、團三、綱生、三郎、辰、大之、貞吉、野主、任、綱生、二、林、梅太郎、木村猪之助

九月十二日
初日
(三日間)

岡山 岡山劇場

一座
津座、道八、土佐大夫、吉三郎、古靱大夫、清六、鏡大夫、相生、助造、陸路、淺造、辰、大之、勝造、團三、綱生、三郎、辰、大之、貞吉、野主、任、綱生、二、林、梅太郎、木村猪之助

九月十七日
初日
(七日間)

京都 南座

(人形部) 全部
津座、道八、土佐大夫、吉三郎、古靱大夫、清六、鏡大夫、相生、助造、陸路、淺造、辰、大之、勝造、團三、綱生、三郎、辰、大之、貞吉、野主、任、綱生、二、林、梅太郎、木村猪之助

年 次	劇場並に狂言	古靱大夫に關する記事	淨瑠璃界一般
十月一日 初日 (二十日間)	大阪 中 座 前 本朝廿四孝 桔梗ヶ原より狐火迄 中 伊賀越道中双六 沼津里之段 次 心中紙屋治兵衛 北新地之段 切 壇浦兜軍記 琴責之段	役場(二度目) 北新地之段 切 三味線 四世鶴澤清六 (三度目) 琴 責 之 段 掛 合 榛 澤 三味線 鶴澤 道八	十月四代目鶴澤勝七(本名小林松之助)大阪上住吉にて歿す行年六十四、法名、禮樂院常轉日敦信士、始め松之助と稱し二世玉松と改め後に勝七を襲名す。
十月廿一日 初日 (廿四日間)	文 樂 座 前 繪本太功記 大序より尼ヶ崎之段 中 蝶花形名歌崎盛 小坂部館之段 次 攝州合邦辻 合邦内之段 切 夕霧伊左衛門 吉田屋之段	役場(初 役) 合邦内之段 切 三味線 四世鶴澤清六 攝州合邦ヶ辻は阪地に於て暫くその上演が禁止されたりしが、此度解禁となりたるものなり、極めて好評。	竹本八十六夫、七世竹本文字大夫と改名す。 是にて冬休み。

十一月廿八日 初日

(四日間)

下 關 辨 天 座

十二月三日 初日

(四日間)

鹿兒島 南 座

十二月八日 初日

(三日間)

久留米 惠比壽 座

十二月十三日 初日

(三日間)

長崎 南 座

十二月十七日 初日

(三日間)

尾ノ道 借 樂 座

大正十五年(廿九歳)

一月二日 初日

(廿三日間)

文 樂 座

前一谷 嫩軍記 大序より
三段目迄

中花くらべ 四季 壽

次義士銘々傳 彌作鎌腹之

切新版歌祭文 野崎村より
道行迄

一座

津大夫、道八、古靱大夫、清六
靜大夫、吉彌、文字大夫、勝平、
相生大夫、芳之助、嶋大夫、淺
造、越名大夫、友五門、辰大夫、
團伊三、播路大夫、清丸、彌生
大夫、吉貞、照大夫、金彌。
(人形澤) 全部

十二月二十日、古靱大夫、住吉
に建築中の白邸竣工。

役場(初役)熊谷陣屋之段 切

三味線 四世鶴澤清六

古靱大夫、十六日役を終りて歸
宅後發熱、十七日より休演、靜
大夫代役を勤め、中途快方に赴
き二三日出勤せしも、又復發熱
せしかば休演す。

十二月六日、照宮内親王殿下御
誕生遊ばさる。

鶴澤友次郎久々にて出座

一月廿一日、三世野澤錦糸(木
名金谷朝治郎)歿す、法名一道
院錦糸日精信士、行年三十七。

年次	劇場並に狂言	古靱大夫に關する記事	淨瑠璃界一般
二月四日 初日 (十九日間) 三月一日 初日 (二十二日間)	同座 前 新薄雪物語 大序より 圓部屋敷之段迄 中 戀飛脚大和往來 新口村之段 同座 假名平本忠臣藏 大序より 仇討迄	役場(初役) 鰻谷之段 切 三味線 鵜澤 清六 古靱大夫、前興行より引續き休演、清六も撥ガコにて同じく休演、鰻大夫新左衛門にて代り役。 役場(三度目) 一力茶屋之段 掛合 平右衛門 三味線 鵜澤 友治郎 古靱大夫右役にて出演の豫定なりしも病氣全快せず休座、源大夫代役。	本興行より鵜澤友治郎、紋下欄に入り、三味線欄夫々變更す。 竹本越路大夫伴恒一、竹本常子大夫と名乗り初舞台を勤む。 鵜澤清六出勤、道行の二枚目を勤む。 三月七日、竹本浚大夫(本名中川小太郎)歿す、法名釋教證、行年四十九、初め津磨大夫と名乗り、後に浚大夫と改名す。